



【女優】

■大迫 可菜実 (おおさこ かなみ)

埼玉県出身。ストレイドッグプロモーション所属。

「メイクルーム」(ゆうばり国際ファンタスティック映画祭2016オフシアター・コンペティション部門グランプリ獲得)にて霧崎早紀(きりさきさき)役に大抜擢され、映画初出演を果たす。舞台活動を精力的に行い、今後の活躍が期待される新人。



【モデル】

■鈴木 タカラ (すずき たから)

1991年生まれ、東京都出身。

芸術系フリーランスの職に就く両親の背中を見て「普通・安定・無難」をモットーにしていた少女時代。しかしながら大学入学後、映画制作への興味から自主映画のサークルに入ったことがきっかけで演技を始め、女優を志す。浪人までさせてもらったのに、女優を志す。現在はモデル業がメインだが、観光大使、イベントMC、スポーツ実況などマルチに活動中。趣味のポールダンスでもたまにショーに出る。「映画がやりたい、映画がやりたい...」と常々思っている

◎映画監督 石井輝男



2005年8月12日に亡くなった映画監督・石井輝男は、1924年東京に生まれ、昭和初期を熱烈な映画少年として過ごしました。東宝を経て新東宝撮影所で助監督となり、成瀬巳喜男、清水宏に従事。1957年「リングの王者 栄光の世界」で監督デビュー。その後、東映・松竹・日活などで活躍しました。

なかでも高倉健主演の東映作品『網走番外地』は、1960年代の世相を反映して大ヒットし、『続網走番外地』『網走番外地 望郷篇』などシリーズ化され、石井監督で10本、降旗康男監督らの『新網走番外地』で8本の人気シリーズになりました。

その後、石井監督は、1993年つげ義春原作の『ゲンセンカン主人』、98年同じ原作者の『ねじ式』、2001年江戸川乱歩原作の『盲獣vs一寸法師』を監督。生涯で84本の劇場公開作品を遺しました。数々の作品が海外でも高い評価を得て、“キング・オブ・カルト”とも呼ばれました。

ダンディズムに徹して映画一筋に生きた石井輝男監督は、人生の番外地に生きた男とも言えます。

〔株〕石井輝男プロダクション 山際永三

※故石井輝男監督の墓は、オホーツク海を望む網走市潮見墓園にあります (=写真 左)

オホーツク網走フィルムフェスティバル実行委員会 (2016)

オホーツク・網走において、地域資源を活かした「映像文化」と「まち」の振興を図るため、映像と創作活動を支援し、映画上映、映画対談、映画教室、交流会などを通して、映画に親しむ環境を創出します。

| | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------|-----------|-------|-------|
| 池田 優昭 | 石崎 啓吾 | 五十畑充保 | 稲毛 孝貴 | 犬塚 紫陽 | 井上 幹太 | 上杉今日子 | 宇都宮咲耶 | 大倉 駿介 | 岡村 一平 | 小川 晃寛 | 小川左都子 |
| 久保 徹 | 斉藤 篤 | 佐藤 明 | 嶋崎 健太 | 杉井 桃子 | 鈴木 修 | 鈴木 麻由 | 清野 萌佳 | 高橋 和憲 | 高橋 康弘 | 高橋 洋子 | 高橋 凛 |
| 瀧 幸佑 | 竹内 夢乃 | 田中日菜子 | 谷村 尚介 | 中嶋 賢一 | 中原 章博 | 中村 旭宏 | 中村二二二 | 中村 りく | 西ノ内 実 | 浜名みゆき | 東 生子 |
| 日野 修志 | 平野 雅久 | 三浦 史也 | 満井 春奈 | 三宅 卓 | 森 春奈 | 山口 さえ | 若林 理子 | ほかボランティア | ※敬称略/50音順 | | |



「網走番外地」ロケスナップ 左から高倉 健 石井輝男 安倍 徹